

【1】財政の動向および前年度収支の状況

1 財政の動向

令和2年度の一般会計歳入歳出予算は、当初27,875,000千円でありましたが、4月に639,100千円、5月に4,894,500千円、6月に1,397,400千円、7月に518,100千円、9月に566,500千円をそれぞれ増額補正しましたので、9月末現在の予算規模は、35,890,600千円となっています。これを前年度の9月末時点の予算現計28,615,100千円と比較しますと、25.4%の増加となっています。

特別会計の歳入歳出予算は、国民健康保険特別会計ほか3会計総額で当初11,900,900千円でありましたが、5月に7,700千円、9月に107,937千円をそれぞれ増額補正しましたので、9月末現在の予算規模は、12,016,537千円となっています。これを前年度の9月末時点の予算規模12,210,266千円と比較しますと、1.6%の減少となっています。

事業会計の収益的支出と資本的支出の合計は、水道事業会計ほか3会計総額で13,245,069千円となっています。これを前年度の9月末時点の収益的支出と資本的支出の合計13,436,198千円と比較しますと、1.4%の減少となっています。

2 令和元年度普通会計歳入歳出決算の概況

普通会計とは、地方公共団体間の財政比較等のため地方財政統計上統一的に用いる会計区分であり、一般会計と企業会計・事業会計等を含まない特別会計を合算した会計区分です。

令和元年度普通会計決算額は、歳入が28,793,407千円(前年度31,199,096千円)、歳出が28,070,269千円(前年度30,314,423千円)、前年度と比較すると、歳入は2,405,689千円(7.7%)、歳出は2,244,154千円(7.4%)の減少となりました。

歳入歳出差引額(形式収支)は、723,138千円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源を控除した実質収支も、626,092千円の黒字となりました。

歳入においては、自主財源のうち基幹的な財源である市税は、個人市民税が1.3%増加しましたが、法人市民税が2.0%減少しました。固定資産税は、土地で0.5%、家屋で4.2%、償却資産で0.3%増加しました。市税全体では1.5%の増加となりました。

また、ふるさと納税制度による寄付金が22.4%の増、国民健康保険財政安定化資金貸付基金の廃止などによる繰入金が56.0%の増となりましたが、庁舎増築整備による二酸化炭素排出抑制対策事業補助金の終了などにより

諸収入が 46.6%の減、繰越金が 24.8%の減となったことから、自主財源全体では 2.0%の減少となりました。

依存財源では、今津東コミュニティーセンターの大規模改修事業などによる国庫支出金が 7.1%の増、子ども・子育て臨時交付金などによる地方特例交付金等が 338.3%の増となりましたが、庁舎増築整備などの大型建設事業が終了したことによる市債が 50.8%の減となったことが、歳入全体に大きな影響を与え、依存財源全体では 10.3%の減少となりました。

歳出においては、目的別歳出決算で、総務費では、庁舎増築整備や新旭駅エレベータ、マキノ駅トイレ整備完了などにより 23.2%の減、民生費では、社会福祉施設やすらぎ荘の空調改修や児童発達支援センター整備事業の実施などにより 3.2%の増、農林水産業費では、獣害防止柵整備事業の減などにより 11.4%の減、商工費では新旭風車村リニューアル整備完了などにより 29.9%の減、土木費では橋梁の長寿命化（架替、補修）や消雪設備整備事業の減などにより 20.3%の減、消防費では、消防ポンプ自動車や消防庁舎（空調設備・火災報知器）の改修事業などの実施により 17.3%の増、教育費では、今津総合運動公園の下水道接続工事や新旭南小学校大規模改修事業の実施などにより 6.6%の増となりました。

次に、性質別歳出決算においては、義務的経費において、人件費が 1.7%の減、扶助費が 1.6%の増、公債費が 2.4%の減となり、全体では 0.6%の減となりました。

一般行政経費においては、補助費が、交通事故・損害賠償請求等の賠償金の減により 3.5%の減となりました。

また、庁舎増築整備や新旭駅エレベータ、マキノ駅トイレ整備完了などにより、投資的経費が 42.3%の大幅な減となりました。

3 令和元年度収支の状況

実質収支	626,092 千円	（前年度	810,706 千円）
単年度収支	△184,614 千円	（前年度	△103,755 千円）
実質単年度収支	△180,282 千円	（前年度	△98,474 千円）

（1）実質収支

令和元年度における歳入歳出差引額（形式収支）は、723,138 千円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源を控除した実質収支も、626,092 千円の黒字となりました。

（実質収支 626,092 千円＝歳入 28,793,407 千円－歳出 28,070,269 千円－翌年度繰越財源 97,046 千円）

(2) 単年度収支

当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いた単年度収支は、184,614千円の赤字となりました。

(単年度収支△184,614千円＝令和元年度実質収支 626,092千円－平成30年度実質収支 810,706千円)

(3) 実質単年度収支

単年度収支に財政調整基金への積立額および地方債の繰上償還金を加え、財政調整基金の取崩額を差し引いた実質単年度収支は、180,282千円の赤字となりました。

(実質単年度収支△180,282千円＝単年度収支△184,614千円＋財政調整基金積立金 4,332千円＋繰上償還金 0千円－財政調整基金取崩額 0千円)